

# 病院の 実力

～新潟編 154

## 病院の実力「血管の病気」 医療機関別2019年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	腹部大動脈瘤		閉塞性動脈硬化症の治療 (件)	重症下肢虚血治療の実施の有無 (○)
	ステントグラフト内挿術 (人)	人工血管置換術 (人)		
新潟				
新潟市民	56	15	67	○
立川総合	36	23	74	○
富山				
県立中央	44	5	71	○
富山大	26	15	68	○
富山赤十字	20	1	63	○
厚生連高岡	3	7	71	○
高岡市民	0	2	50	○
済生会富山	0	0	29	○

今回は、主な血管の病気を取り上げる。一覧表には、各医療機関の2019年の治療実績を掲載した。

「腹部大動脈瘤」は、おなかを通る大動脈の一部が、こぶ状に膨らむ病気です、破裂すると命に関わる。こぶの直

## 血管の病気

径が5センチ程度になると、破裂を防ぐための積極的な治療が必要とされる。

脚の付け根から血管内にカテーテル(細い管)を通し、こぶの部分にステントグラフトという筒状の器具を置いて補強する「ステントグラフト内挿術」が近年増えている。こぶのできた部分を切り取

# 大動脈瘤 破裂防止へ補強

って化学繊維でできた人工血管に置き換える手術「人工血管置換術」も行われる。

「閉塞性動脈硬化症」は、

脚の動脈が狭くなったり詰まったりして、血流が悪化し、歩くと脚にしびれ、痛みなどが出る病気。糖尿病など、生

活習慣病の患者がなりやすい。薬物療法や運動療法を行っても改善しない場合は、血管の狭くなった部分をカテーテルを用いて広げる治療や、別の血管をつないで血流の迂回路を作るバイパス手術が選択肢になる。一覧表の「閉塞性動脈硬化症の治療」の項目には、カテーテル治療とバイパ

ス手術の合計件数を示した。「重症下肢虚血」は、閉塞性動脈硬化症が進行し、安静時にも足が痛んだり、潰瘍ができた状態。足先が壊死した場合は手術で切断することもある。血流を改善するためにバイパス手術やカテーテル治療が行われるケースもある。

## 喫煙や高血圧 影響大

立川総合病院

岡本祐樹 心臓血管外科医長 45



血管置換術と、血管内治療によるステントグラフト内挿術の両方を採用しており、患者の年齢や体力、患部の位置などを考慮して施術方法を決める。

滞り、少し歩くだけでだるくなったり痛んだりする。当院では循環器内科と協力して治療に当たる。カテーテル治療や人工血管で血流を再建するバイパス手術も行うが、薬物療法や運動療法も積極的に取り入れている。運動療法で血流が改善するケースもある。

当院は、心臓血管外科医8人で血管外科治療を担当している。ドクターヘリなどによる緊急搬送も多く、県内全域から患者を受け入れている。

腹部大動脈瘤は痛みなどの自覚症状が乏しく、人間ドックの腹部超音波検査や他の病気の検査で見つかることが多い。当院は、開腹による人工

人工血管置換術に比べてステントグラフト内挿術は手術時間が短く、傷痕も小さいなど、患者への負担は軽い。高齢者などには有利な治療だ。ただ、隙間からこぶに血液が流れる可能性があるなど万能ではない。人工血管置換術の方が実績もあり、確実性は高い。

閉塞性動脈硬化症は、血管が細くなって脚への血流が

血管の病気は、喫煙や高血圧の影響も大きい。生活習慣や血圧などに気を配り、定期的に健診を受けてほしい。

全国の調査結果は17日の「安心の設計面」に掲載しました。